

第47号

平成29年3月30日(木)

(株)アイ・アンド・アイ企画
(株)IBC開発センター
(有)アド オフィス ミュー
(株)アド東北盛岡支社
(株)岩手広告社

岩手日報アド・プランチ(株)
(株)岩手日報広告社
(株)ウインドクロス
(株)オリンピック企画
北東北サンケイ広告(株)

(株)コスモピーアール
(株)ジェイアール東日本企画盛岡支店
(株)総合広告社
(株)東広社
ナチュラルコム(株)

(株)東日本朝日広告社盛岡支店
(株)東北博報堂盛岡支社
(株)読売岩手広告社
(五十音順)

新年交賀会で地域社会への一層の貢献を呼び掛け
八重樫信男理事長



八重樫理事長年頭所感

大会準備を進めている。来年は本協会設立30年という記念すべき節目の年にあたる。30周年を迎えるにあたり、より積極的な協会活動を推進させ、地域社会に貢献できるよう、これまで以上に努力を重ねて参りたい。

昨年を振り返ってみると、地震・台風・噴火・暴風雪など、数々の災害があった。熊本地震、台風10号は岩手に甚大な被害を与えた。北海道に台風上陸3連発、九州各地の記録的大雨など、

地域社会貢献をさらに

平成29年ほどのような年になるのだろうか。私たち広告業界もテクノロジーの進化とともに、広告の形が大きく変化し従来のビジネスモデルが崩れつつある。今後もWEB広告の勢いは止まることはないだろう。新しいネットメディアも続々と誕生し、広告手法や配信テクノロジーも、ますます進化していくものと思う。

いずれにしても、何事もなく平穏無事の一年ということとは全くない。いかなる問題に対しても、それぞれに知恵を出し、汗を流し、努力を重ね、勇気を持って実行すれば必ず乗り越えていけるものと私は確信している。

岩手県広告業協会は平成元年4月に設立され、岩手の広告業界発展のために、さまざまな活動を展開し平成という年号とともに歩んできた。今年秋には、全国広告業団体連絡会議・東北ブロック会議いわて大会を、盛岡市で開催することになっている。東北各県から参加される皆さまを、岩手ならではのおもてなしでお迎えするために、特別に設置した実行委員会を中心に、

あらためて日本は自然災害の多い国だと気づかされた。

一方で明るい話題も多かった。春には北海道新幹線が開業し、東京から函館まで乗り換えなしで北海道に繋がった。夏にはリオオリンピックで日本人選手の連日の大活躍が続いた。10月1日に希望郷いわて国体が開幕した。岩手県選手団の活躍で、県民に大きな感動と勇気を与えてくれた。

岩手県広告業協会主管で今年秋に開催する第21回全国広告業団体連絡会議東北ブロック会議いわて大会の実施計画案がまとまった。大会は10月19日に、紫波町の「オガールプラザ」で視察と記念講演会、夕方から盛岡市でウエルカムレセプションを開く。岩手開催は平成23年以来となる。4月の通常総会で正式決定する。

計画案は、大会実行委員会(実行委員長・羽川久美理事)が昨年のふくしま大会視察以来、協議

を重ねまとめた。

視察するオガールプラザは、平成24年に開業した産直・カフェ・クリニック・学習塾などの民間テナントと、紫波町が運営する交流館・図書館・子育て応援センターで構成される「官民複合施設」。公民連携で地域活性化を推進し都市と農村の新しい結びつきを創造するプロジェクト。「暮らす、働く、学ぶ、集う、憩う、楽しむ」魅力的な持続的発展する街づくりをテーマにしたユニー

クな取り組みが注目を集め、全国から多くの視察が訪れている。記念講演は、オガールベース株式会社代表取締役の岡崎正信氏。内閣府官房地域活性化伝道師も務める岡崎氏に、立ち上げから携わったプロジェクトの理念や推進の苦労、将来像を披露してもらう。

ウエルカムレセプションは、盛岡市鉾屋町の「もりおか町家物語館・浜藤ホール」が会場。地酒と肴とジャズ演奏で懇親を深める。また「おもてなし」として、当日の昼食として盛岡三大麺「冷麺、じゃじゃ麺、わんこそば」の店舗に協力を願ひ、大会参加者の希望に応じて手配する。

前回のいわて大会は、東日本大震災からわずか半年余りの状況で開催された。今回は岩手県の復興の状況も東北6県の関係者に伝える機会ともなる。会員社、特別賛助会員社、賛助会員社の積極的な参加を呼び掛けていく。

東北ブロック会議いわて大会 10月19日、「オガール」会場に

思い起こせば平成23年11月、東日本大震災からまだ半年が過ぎたばかりで被災地東北は混乱と不安に揺れるさなか第15回東北ブロック会議岩手大会が開催された。大会の基調テーマがその時の状況を反映して「東日本大震災と広告」という課題で各県協会から広告会社・媒体社・広告主の動向と各協会としての取り組みについて発表があった。直木賞作家高橋克彦氏が「東日本大震災と世界遺産・平泉」という演題で、IBC岩手放送村松文代アナウンサーとトーク形式の記念講演をした。

未曾有の状況に遭遇し、人が、社会が、現状をどう受け止めどう理解しどう行動したらいいのか今までにない思考回路をつかって必死に考え一日も早い復興を願って奮闘していたことを思い出す。

酉年の飛翔を誓い新年交賀会



新たな年の発展を祈る音頭上げが会場に響きわたった新年交賀会

岩手県広告業協会新年交賀会は、1月18日にホテルメトロポリタン盛岡ニューウイ

あれから6年が経過し、復興から創生へとフェーズが動いていく中で今回の大会は地方創生「まち、ひと、しごと」をキーワードに地域の活性化とその好循環を生み出すシナリオは？をテーマに開催フレイム・概

おもてなし 岩手らしく

東北ブロック会議・大会開催に寄せて

要等を実行委員会では情報収集し準備を進めている。少子高齢化・人口減少が進む中で避けて通れない課題解決に繋がればと思っている。また、岩手らしいおもてなしのアイデアを盛り込んだ意義のある大会にし

ングで開かれた。会員社と特別会員社、賛助会員社の約180人が集い幕を開けた酉年の飛躍を誓った。

八重樫信男理事長が「昨年は岩手国体の開催など明るいニュースが多かった反面、災害も頻発した。今年は健康で幸せな一年となるようにしたい」とあいさつ。岩手広告協会副会長の鎌田英樹IBC岩手放送代表取締役社長が「新たな年も広告出稿量など前年実績を合言葉にしたい。広告業協会の千客万来と商売繁盛を祈る」と祝辞。植崎憲二テレビ岩手代表取締役社長の音頭で乾杯した。

トランプ氏の米大統領就任式直前で世界経済の行方に不安を抱えた中で迎えた新年だが、盛岡山車音頭研究会の音頭上げ、岩手を拠点に活動する男女3人のバンドユニット「クルール」がサックス、キーボード、ドラムでノリの良い演奏を披露した。会場は熱気にあふれ岩手パワーが大いに盛り上がった。

視察兼ね6人がふくしま大会視察

第20回全国広告業団体連絡会議東北ブロック会議ふくしま大会は、昨年11月17日に福島県いわき市のアクアマリン福島で開催された。福島県広告業協会加盟社と賛助会員社23人をはじめ東北6県から約50人が参加。次年度開催地となる岩手県広告業協会から視察も兼ねて6人が出席した。

アクアマリンは、川の上流から海洋までの水生生物を段階ごとに鑑賞できるなどユニー

たいと考えている。開催にあたり会員、特別賛助会員、賛助会員の皆様にもご支援ご協力を宜しく願いたい。

(実行委員長 羽川 久美)

130人参加し社員研修セミナー

平成28年度の岩手県広告業協会社員研修セミナーは会員社、特別賛助会員社、賛助会員社26社約130人が出席し昨年11月17日に「プラザおでつて」で開かれた。

本年度の講師はSOLDO UT株式会社社長の荻原猛氏。顧客の利益最大化をめざすローカルのデジタルマーケティング事情をテーマに講演。「ITの使命は生産性を上げること、特に中小企業の売り上げに結びつくHP活用

の課題解決には広告会社が必要だ」とW E B 市場の現状と成功例を上げて紹介した。

特にW E B での契約には市場を見極めるテストマーケティング(特にリスティング広告)が重要で、その試案として「800クリックを買い(費用5万)、1%のリターンを目安にして成果の上がる環境を整えていく(H P の改善など)」と具体的なW E B 運用を紹介した。参加者からはトレンド検索ワードについて質問も出るなど有意義な講演会となった。

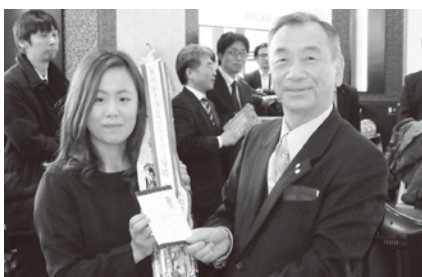
クな環境水族館を掲げて平成12年に小名浜港埠頭に開館した。東日本大震災では、1階部分が水没するなど大きな被害を受けた。大会参加者は、展示の鑑賞の後に館長の安部義孝氏が施設の理念や震災被害の復興状況など説明を受けた。懇親レセプションは水槽をバックに開かれ各県の広告業界の実情を意見交換し懇親を深めた。またフラガール3人がアトラクションに登場しハワイアンの音楽と優雅な踊りを披露した。

伊藤杏奈さん初優勝 親睦ボウリング大会

岩手県広告業協会親睦ボウリング大会は、2月24日、盛岡駅西通のラウンドワン盛岡店で行われた。伊藤杏奈さん(岩手日報社)がトータル332点、ハンディ1ゲーム30点で初優勝を飾った。

大会は会員、特別賛助会員、賛助会員社から女性11人を含む62人が出場し、各レーン3人ずつに分かれ2ゲームの合計点を競った。今回は女性のハンディを1ゲーム30点と前回より10点増やしたほか前年の優勝者、準優勝者、3位入賞者に1ゲーム30点のハンディを設定しゲーム性を高めた。優勝ハンディが功を奏し上位10傑に女性陣が2人食い込んだ。昨年優勝の谷藤元さん(岩手日報アドプランチ)は2ゲームで60点のハンディを背

負いながらも316点で準優勝し実力を見せつけた。昨年に続き3位の高林達也さん(東広社)は2ゲームで20点のハンディを克服し310点の高得点をマークした。



優勝トロフィーを手にする伊藤杏奈さん(左)と宮澤俊次企画委員長